

## イスラエルを導くモーセの律法

### 聖書箇所:ガラテヤ書 3章 22-26 節

- 3:22 しかし聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人々に与えられるためです。
- 3:23 信仰が現れる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じこめられていました。それは、やがて示される信仰が得られるためでした。
- 3:24 こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。
- 3:25 しかし、信仰が現れた以上、私たちはもはや養育係の下にはいません。
- 3:26 あなたがたはいな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。

### 1 イントロダクション

1. 前回までの復習
  - (1) 私たちがイスラエルを愛し、イスラエルのために祈るべき理由は、「神がイスラエルを愛しておられるから」である。
  - (2) 神はアブラハム、イサク、ヤコブ、また彼らの子孫であるイスラエルの民と「アブラハム契約」を結んだ。アブラハム契約に基づいて与えられる契約は、すべて神の恵みによる約束であり、破棄されるものではない。
2. 今回はモーセ契約とモーセの律法について学ぶ。
  - (1) 「モーセ契約」は、シナイ山で神がイスラエルと結ばれた契約である(出 19:3-8)。このときの代表者がイスラエルのエジプト脱出を導いたモーセであったことから、「モーセ契約」と呼ばれている。また、シナイ山で結ばれた契約であることから、「シナイ契約」と呼ばれることもある。いわゆる「旧約聖書」の「古い契約」は、この契約のことである。
  - (2) このモーセ契約は、前回学んだように「条件付契約」である。また、このような契約はいわゆる「双務契約」であり、「契約を守れば祝福が、違反すれば裁きが下る」とも学んだ。
  - (3) 双務契約ということは、一方が契約を履行しなければ契約が破棄されることがある、ということである。
  - (4) この契約の条項(つまり、約款)が、「モーセの律法」である。これらの条項は、古代中東の法律文書の言い回しによく似ており、出エジプト記 20 章～申命記の至る所に

見られる。学者によればこれらの条項は613あると言われており、いわゆる十戒はその一部である。

(5) 613もある約款を守り切ることが至難の業であるということは、想像に難くない。

### 3. 今回の学びの目的

- (1) 神はなぜ、このような厳しい契約をイスラエルに与えられたのだろうか。
- (2) 上記の問いをきっかけにして、モーセの律法の意味と目的、そしてイスラエルの不従順の問題を考えていきたい。

## 2 モーセの律法の意義

### 1. モーセの律法は、神の義と聖さを示している。

- (1) キリスト教界において、「律法」というとマイナスイメージが持たれていることがある。しかし、モーセの律法自体は良いものである。

ロマ 7:12「ですから、律法は聖なるものであり、戒めも聖であり、正しく、また良いものなのです。」

- (2) なぜなら、この律法は神から与えられたものだからである。

レビ 19:37「あなたがたは、わたしのすべてのおきてとすべての定めを守り、これらを行いなさい。わたしは主である。」

- (3) 神はイスラエルに「あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる」と言われた(出 19:6)。神の祭司として召された民には、神のように聖なる者であることが求められている。

レビ 19:2「イスラエル人の全会衆に告げて言え。あなたがたの神、主であるわたしが聖であるから、あなたがたも聖なる者とならなければならない。」

- (4) そのように求められているイスラエルの生活基準として与えられたモーセの律法は、それを与えられた神がいかに聖い方であるかを教えている。

### 2. モーセの律法は、イスラエルを他民族から区別する役割を果たす。

- (1) 「聖い」ということは、他から区別されているということでもある。

申 7:6「あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。あなたの神、主は、地の面のすべての国々の民のうちから、あなたを選んでご自分の宝の民とされた。」

- (2) イスラエルの民は、まことの神を知らず、偶像を崇拜していた他の民族と同じような生活を送ってはならないのである。
- (3) たとえば、モーセの律法には食べてよい食物と食べてはいけない食物に関する規則が

ある。こういった規則を実行することで、ユダヤ人は他民族とは異なる生活習慣を身につけていった。

3. モーセの律法は、実行しようとする者の罪深さを示す。

(1) モーセの律法は、神の義と聖さを示していることは既に見た。神の義の基準が示されているということは、そこに到達できない私たち人間の罪深さをも示しているのである。

(2) ガラテヤ人への手紙 3:19

では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫 [キリスト] が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。

(3) 神ご自身が、イスラエルの民はこの契約の遵守に失敗し、契約は破棄されてしまうことを予告しておられる。

申 31:16b-18「この民は、入って行こうとしている地の、自分たちの中の、外国の神々を慕って淫行をしようとしている。この民がわたしを捨て、わたしがこの民と結んだわたしの契約を破るなら、その日、わたしの怒りはこの民に対して燃え上がり、わたしも彼らを捨て、わたしの顔を彼らから隠す。彼らが滅ぼし尽くされ、多くのわざわいと苦難が彼らに降りかかると、その日、この民は、『これらのわざわいが私たちに降りかかるのは、私たちのうちに、私たちの神がおられないからではないか』と言うであろう。彼らがほかの神々に移って行って行なったすべての悪のゆえに、わたしはその日、必ずわたしの顔を隠そう。」

エレ 31:32「その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——主の御告げ——」

(4) 実際に、民数記 11 章以降は、イスラエルの失敗の連続である。こうした現実を見て、モーセは次のように嘆いている。

民 11:29「しかしモーセは彼に言った。『あなたは私のためを思ってねたみを起こしているのか。主の民がみな、預言者となればよいのに。主が彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに。』」

4. モーセの律法は、贖い主であるメシアへの希望を持たせる。

(1) モーセの律法を完璧に実践しようとする者は、自力での実践は無理であるという自覚に導かれる。そのような者は、罪深い自分を贖う救い主への希望に導かれる。

- (2) ガラテヤ人への手紙 3:22-26
- (3) 律法の中に、メシアが現れたら彼に従わなければならないという条項がある<sup>1</sup>。  
申 18:15「あなたの神、主は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。」<sup>2</sup>
- (4) イエスご自身が、モーセの律法はメシアを指し示していることを教えておられる。  
ヨハ 5:46「もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。」
- (5) モーセ契約の究極の目的は、イスラエルの民をメシアへと導くことである。

### 3 モーセの律法の現状

1. モーセの律法は、メシアの十字架によって成就した。
  - (1) メシアは、モーセの律法の要求を全て満たされた。とりわけ、そこに示されている神の義の基準を全て満たされ、贖いの業を完了された。  
ヨハ 19:30「イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、『完了した』と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。」
  - (2) エペソ人への手紙 2:14-16  
キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。
  - (3) イエスが十字架に至るまで律法の要求を完全に満たされたが故に、律法は成就し、契約条項としては廃止されたのである。
2. 今やモーセ契約は機能していない。
  - (1) ガラ 3:25-26 で、イエス・キリストを受け入れた者はもはや律法の下にはいないということを学んだ。
  - (2) 今や御霊ご自身が私たちに与えられ (エレ 31:33-34)、私たちはイエスを信じること

<sup>1</sup> Sailhamer の研究では、申 18:15 はモーセの律法の 172 番目の条項であるとされている。John H. Sailhamer, *The Pentateuch as Narrative: A Biblical-Theological Commentary* (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1992) 456.

<sup>2</sup> ペテロは、この「モーセのような預言者」はイエスのことであると断言している (使 3:22-23)。

によってキリストのからだの一部とされた。

- (3) 私たちは罪を犯したとき、律法が要求する動物のいけにえを献げる必要はない。神にその罪を告白することが求められている (Iヨハ1:9)。
- (4) 補足：ただし、モーセの律法を学ぶことが無意味になったわけではない。モーセの律法を学ぶことによって、私たちは神の義の高さと神ご自身の聖さを知ることができる。それによって、自らの罪深さと、神の贖いの業の素晴らしさを学び、神をほめたたえることができるのである。

### 3. 以上をふまえたイスラエルの民の現状

- (1) 遙か昔にイスラエルに与えられたモーセの律法は、2,000年前、イエスの十字架によってこのような現状になっている。
- (2) しかし、多くのユダヤ人は、それを知らないでいる。
- (3) 多くのユダヤ人は、律法に含まれている生活習慣を単なるユダヤ文化の一部と見做している。
- (4) 一部のユダヤ人は、その本当の意味を知らずに、熱心に実践しようとしている。
- (5) モーセの律法の本来の意味を理解し、メシアであるイエスを受け入れているユダヤ人は、ほんの一握りなのである。

## 4 今月の祈り課題

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ『月刊ハーベスト・タイム』2016年12月号、3頁より  
ハスデイ・イエシュア・メシアニック会衆（アラッド） — 一時は落ち着いていたが、アラッドで再び、悪しき霊たちが超正統派ユダヤ人を使って私たちに霊的戦いを挑んできている。アラッドには、シモン・プリナーをリーダーとするロシア語を話すメシアニック会衆がある。以下はプリナーの証言である。「超正統派ユダヤ人共同体からの新たな嫌がらせの波が今、アラッドに押し寄せています。彼らは私たちの後をつけ、ののしり、嫌がらせをし、顔の真正面からフラッシュを浴びせて無数の写真を撮ります。またビラをまき、会衆のメンバーの雇い主に圧力をかけてメンバーを解雇するように迫るのです。ここ数週間はアラッド最大の超正統派グループ『ハシデイ・グル』による嫌がらせを受け、会合を持つことが特に困難でした。このような中で行う礼拝は毎日が試練の連続です。主を信頼していますが、皆さんの祈りが必要です」(amzi)

1. ここには、ユダヤ教に熱心でありながらもことの神を受け入れていない、不信仰な宗教的ユダヤ人の現実がある。

2. 彼らは熱心にモーセの律法（トーラー）を実践しようとしている。しかし、純粹にトーラーを求めるのではなく、古代からのラビたちの言い伝えを通してトーラーを実践しようとしている。
3. それゆえに、トーラーが実際に指し示しているメシアには中々目が開かれていないのである。
4. 前回、イスラエルが将来靈的に回復することを学んだ。しかし、まだそれが実現していない現在、イスラエルの中で信仰に導かれたメシアニック・ジューは、同胞の中での靈的戦いという厳しい試練に置かれているのである。
5. 教会は、イスラエルと異邦人から成る「新しいひとりの人」である（エペ 2:15）。信仰にある兄弟姉妹であり、同じキリストのからだの一部であるメシアニック・ジューのために祈ろう。
6. また、モーセの律法にある生活習慣を単なる文化の一部とみなす世俗的ユダヤ人も、モーセの律法を追い求める宗教的なユダヤ人も、彼らのうちのひとりでも多くが、ともにモーセの律法が指し示すメシアへと導かれていくように祈ろう。